研究課題名： Partial upper sternotomy approach による弓部大動脈瘤手術における Frozen Elephant Trunk の有用性の検討

所属(診療科)：心臓血管外科

研究責任者(職名)：田島　泰（医師）

研究期間：2020 年 1 月 1 日～2035 年 12 月 31 日

研究目的と意義：胸部大動脈瘤手術において、上行大動脈置換術に対する partial upper sternotomy (PUS)は胸骨正中切開と比較して術後疼痛の軽減、入院期間の短縮などの利点が多く報告されています。しかし、弓部大動脈置換術は深い末梢吻合の視野のため、正中切開と比較して限定された視野の PUS アプローチは安全性の懸念から広く普及していません。Frozen elephant trunk (FET)を用いることで、比較的胸壁に近い場所で安全に末梢吻合をすることが可能であり、PUS アプローチでの限られた視野の中でも弓部大動脈瘤手術を安全に行える可能性があると思われます。

研究内容：●対象となる患者さん　2009 年 1 月 1 日～2035 年 12 月 31 日までで当院心臓血管外科で胸部大動脈瘤の手術を施行された患者様。 ●利用する情報/資料 年齢、性別、既往症、臨床症状、血液検査結果、画像情報、手術結果、 治療方法、手術後のリハビリ情報、治療後の転帰・予後など。 ●研究方法：当院で 2009 年 1 月から 2035 年 12 月に PUS アプローチまたは胸骨正中切開で Frozen elephant trunk を用いた胸部大動脈瘤手術を行った症例を検討します。手術法としては PUS approach で第四肋間まで胸骨切開をおき、上行大動脈、腋窩動脈または大腿動脈送血、右房脱血または大腿静脈脱血、左室ベント挿入し、人工心肺開始します。咽頭温 26 度まで冷却し、循環停止を行い、弓部置換術＋オープンステント内挿術またはオープンステント内挿術を施行します。
電子カルテから年齢、性別、BMI、術前併存疾患、画像データ、手術データ、術後合併症、採血データ、在院日数、術後挿管期間、在院死亡、遠隔死亡、secondary intervention などを retrospective に検討する。尚、患者様の情報は匿名化後の電子化情報のみを使用し、統計解析を行います。

問い合わせ先：【研究担当者】　氏名：田島　泰　住所：〒238-8567 神奈川県横須賀市上町 2-36　電話：046-823-2630 FAX：046-827-1305　受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）